【令和８年度　技術科授業改善推進プラン】

技術科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。
基礎的な技能や知識を習得し、身近な生活の課題を主体的にとらえ、具体的な実践を通して、問題を解決する技術を身に付けた生徒の育成を目指す。

学習状況及び課題

	1学年	2学年	3学年
学習状況	・授業に関心をもって取り組む生徒が多い。 ・図法の理解能力が高く、立体を瞬時にイメージし、図に表現することができる生徒が多い。 ・作業経験の少ない生徒が多く、力を入れやすい姿勢や効率的な作業を意識できる生徒は少ない。	・文字入力や画像検索など、基本的なコンピュータ操作をスムーズに行うことができる一方、日常的に利用しているコンピュータの仕組みについての理解は十分ではない。 ・興味・関心をもって授業に取り組む生徒が多く、与えられた課題に対して真面目に取り組むことができる。	・限られた授業時間の中で集中して取り組み、レポートなどを確実に提出することができる。 ・興味・関心をもって授業に取り組むことができる生徒が多い。 ・コンピュータ操作には慣れているが、プログラミングに不慣れな生徒が多い。
指導上の課題	・工具や機械の正しい使用方法を理解させ、安全かつ円滑に作業できるようにする。 ・生活の中にある技術の役割や働きを意識できるようにする。 ・週1時間の授業であり、指導内容も多く、作業を伴うため、時間的な制約が大きい。	・工具の正しい使用方法や起こり得るけがについて理解させ、安全かつ円滑に作業できるようにする。 ・週1時間の授業であり、製作や作業も行うため、時間的な制約が大きい。 ・製作活動に不慣れな生徒がいる。	・隔週の授業で時間が限られているため、要点を絞った指導が必要である。 ・プログラミングについて、学習内容の定着や発展的な学習につなげることが難しい。 ・双方向性のあるコンテンツのプログラムを通して、相互作用の原理を理解し、必要なスキルを身に付けられるようにする。

改善プラン

	1学年	2学年	3学年
学習面	・実物に触れる機会を多く設定し、体験を通して、技術と普段の生活とを関連付けて考えられるようにする。 ・実生活との関連を十分に意識して学習に取り組めるようにする。 ・「なぜ」「どうして」という疑問を意識して学習に参加できるようにする。 ・失敗して終わりにするのではなく、失敗をどのように改善するかを考え、最後まで諦めずに問題解決に取り組めるようにする。	・参考となる資料を用意し、安全に作業を進められるようにする。 ・作業では特に安全に留意し、製作工程を理解させるとともに、使用する工具などに応じて適切な安全指導を行う。 ・生物育成の技術と生活や社会、身近な環境との関わりを理解できるようにする。 ・情報の学習では、身近な課題を設定し、社会生活の中で活用できる能力の育成を図る。	・生活に活用できる技能を習得できるよう、コンピュータに触れる機会を多く設定する。 ・学習内容が生活に密着したものであることを意識させ、目指すゴールを明確にして授業に取り組めるようにする。 ・身近なプログラムを題材として考えさせ、情報と生活との密接な関係に気付くことができるようにする。 ・機能や設備などについて、機械的な仕組みの理解を深める。
指導面	・安全に作業を進めるため、教師が実際に作業をして見せ、適切な方法を理解できるようにする。 ・正確かつ効率的に作業することを常に意識できるようにする。 ・重要な工具や部品の名称を正確に覚えられるよう、教材を工夫する。 ・情報収集や情報モラルを正しく実践する力を育成できるよう、社会での具体的な事例と関連付けて指導する。	・適切なソフトウェアを選択し、操作することを通して、情報処理に必要な技能を習得できるようにする。 ・情報収集や情報モラルを正しく実践する力を育成できるよう、実際に情報を収集・活用する活動を取り入れ、適切に行動できるようにする。 ・技術と実生活との関わりを常に意識しながら、授業に参加できるようにする。	・コンピュータ操作の基本的な技能を習得できるようにする。 ・完成形を意識し、そこに向かうための手立てを考えさせるとともに、適切なプログラムや命令を試行錯誤しながら考えさせる。 ・情報収集や情報モラルを正しく実践する力を育成できるよう、実際の場面を想定した活動を取り入れ、適切に行動できるようにする。

評価

① 各学期の定期テストの結果　② 保存・提出された内容　③ 実習での技能の習得、作業内容・進度
④ ワークシート等による実生活への発想及び展開